

生活 

70以上の市町で導入

8月末、土曜日の午前11時半。一眼レフカメラを肩にかけ、赤い電動自転車に乗った男性(40)が、楽しそうな様子で神戸市中央区のJR元町駅南側にあるシェアサイクルのポート(駐輪場)に戻ってきた。男性は、午前9時過ぎにポートで自転車を借り、趣味の写真撮影のため、ハーバランドやメリケンパーク周辺を回ってきたという。

以前は徒歩で撮影していたが、今年5月から週末はシェアサイクルを使うように、「行動範囲がぐんと広がり、たくさん写真が撮れるようになった。駅近くでさっと借りて返せる手軽さがあるし、坂道の多い神戸で電動なのが助か



市民に親しまれている台湾・台北市のシェアサイクル。(インタープレス提供)

渋滞緩和や地域振興に期待

自転車を利用する「シェアサイクル」が各地で広がっている。国内では70を超える市や町で導入が進み、海外ではパリやロンドン、台北などで気軽な市民の「足」として浸透している。市街地の渋滞緩和や地域活性化、環境問題、放置自転車対策と、さまざまな効果が期待できる公共交通手段だけに注目されている。

(横山由紀子)

シェアサイクル 快走



JR元町駅前のシェアサイクルポート。観光や買い物、仕事の足として利用されている。＝神戸市中央区

ります」と満足そうな様子。今年3月末に、同市中心部で始まったシェアサイクル「こうべリンクル(通称・コベリン)」。放置自転車を減らすと同時に、観光客に中心部以外の観光地にも足を運んでもらおうと、神戸市が企画、サイカパーキング(東京都中央区)とドコモ・バイクシェア(同墨田区)が共同運営している。

JR三ノ宮、元町駅前やハーバランドなど10カ所にポ

ートを設置。計70台の電動自転車にはGPS(衛星利用測位システム)や、バッテリー残量を離れた場所でも把握できる機能が搭載されており、どのポートで返却してもメンテナンスできる仕組みになっている。インターネットで会員登録し、自転車に付いている端末に開錠パスコードを入力すれば利用できる。最初の1時間が100円で、以後30分ごとに100円(1日最大1千円)。初めから1日利用を申し込めば500円。観光や買い物、通勤に利用される人気がという。

■ シェアサイクルはコミュニティサイクルとも呼ばれ、エリア内の複数のポートで自転車を借りたり、返却ができるシステム。一つの決まった駐

輪場で貸し出し・返却を行うレンタサイクルとは異なる。日本シェアサイクル協会(東京都中央区)によると、シェアサイクルは平成20年ごろ各地で実験的に利用が始まり、現在は札幌や仙台、横浜、金沢、広島、鹿児島市など、全国で70を超える都市で実施されている。国も推進しており、国土交通省は今年2月に策定した交通政策基本計画で、32年度までに1000の自治体での導入を目標としている。

ただ、課題もある。国交省が昨年11月に行ったコミュニティサイクルに関するアンケートによると、1都市あたりの自転車保有台数は平均170台、ポート数は8カ所、海外に比べると小規模だ。日本シェアサイクル協会によると、8年前にスタートしたパリでは自転車2万台、ポートは1800カ所ある。また5年前に導入したロンドンでは1万台、700カ所。ニューヨークや台北、スペイン・バルセロナなどでも数千台の自転車を保有し、市民の足になっているという。

NPO法人「自転車活用推進研究会」(東京都品川区)の小林成基理事長は「国内で採用する自治体が増えてきたとはいえ、自転車やポートの数が海外に比べ格段に少なく、市民の認知度もまだまだ」と話す。パリのように、地下鉄の駅を出れば300メートルのポートが整備されるなど利便性がアップすれば、「市街地の渋滞緩和や環境保全、地域振興などの有効な手立てとなるだろう」と期待している。